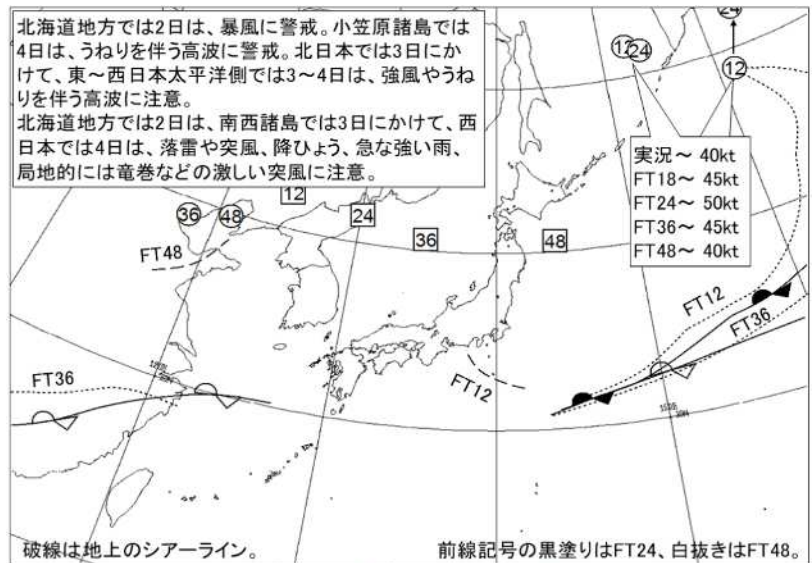


1. 実況上の着目点

- ① 500hPaで -30°C 以下の寒気を伴う大きな寒冷渦が間宮海峡付近を東進。寒冷渦直下の発達した低気圧周辺では気圧の傾きが大きく、北日本では強い風や非常に強い風が吹いて波が高く、しけている所があり、雷を検知。
- ② 中国東北区に高気圧があつて、日本海と黄海及び東シナ海に張り出している。
- ③ ①の低気圧と②の高気圧との間は広く寒気移流場。東シナ海では、南下する寒気の手前で下層暖湿気が上昇し、雷を伴う非常に激しい雨を解析。
- ④ 台風第27号がマリアナ諸島を西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 2日は、1項①の寒冷渦がオホーツク海を東進し、寒冷渦の周りを回る上層トラフや地上の気圧の谷が北日本付近を通過する。低気圧の周辺では強い風や非常に強い風が吹いて波が高くなり、しける所がある。北海道地方では2日は、暴風に警戒。北日本では3日にかけて強風や高波に注意。また、500hPaで -27°C 以下の寒気が北海道地方に流れ込み、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北海道地方では2日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。3日にかけて、北海道地方には850hPaで 0°C 前後の下層寒気が流れ込み、標高の高い山では雪の混じる所がある。
- ② 1項②の高気圧は4日にかけて、日本海から日本の東へ中心を移す。高気圧の縁を回る東寄りの風により、4日には湿った空気が西日本に流れ込む。また、3日には500hPa 5820～5880mの強風軸に対応して華南から東シナ海で前線が顕在化し、4日にかけて東進する。東よりの湿った空気や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。西日本では4日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の寒気の手前は3日夜にかけて南下し、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では3日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。なお、4日には華南から東シナ海で前線が顕在化することで、寒気の手前は不明瞭となり、対流活動は収まる見込み。
- ④ 1項④の台風第27号は4日にかけて、マリアナ諸島付近から小笠原近海へ北上する。台風周辺からうねりが到達し波が高くなり大しけとなる所がある。また、2項②の高気圧縁辺では吹送距離の長い東よりの強い風が吹いて、波が高くなりしける所がある。小笠原諸島では4日はうねりを伴う高波に警戒し、東～西日本太平洋側では3～4日は、強風やうねりを伴う高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島4、東北・近畿・四国3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。